



審判(副)委員長



戦評用紙

種別 **バレーボール (精神)** 会場 **小浜市民体育館**

平成 **30** 年 **10** 月 **13** 日 土曜日 第 **1** 日目

特設Aコート 第 **1** 試合

1回戦(第1試合) 準決勝(第 試合) 3位決定戦 決勝戦 交流戦(第 試合)

◎試合結果 (該当する種別にレ印)

勝利チーム	25	—	14	}	0	福井県	都道府県・指定都市名
青森県	25	—	19				
都道府県・指定都市名		—					

【審判員】
 主 審： 杉下 真文(福井県) 副 審： 辻 弘文(福井県)
 記録員： 内藤 和志(福井県) A・S： 東山 裕紀(福井県)

【戦 評】 記載者： 東 條 悟

第1セット序盤は、青森県11番太田のスパイクが決まり、青森県がリードを奪う展開となった。福井県も粘り強くボールをつなぎ、福井県12番赤松が鋭いスパイクを決めるなど対抗したが、青森県のブロックとレシーブが機能し、福井県の追撃を許さなかった。青森県2番佐藤のフェイントやスパイクをコースに打ち分けて得点を重ね、さらにリードを広げ、そのまま青森県が第1セットを先取した。勢いに乗った青森県は、第2セットも効果的なサーブやコンビ攻撃で4連続得点するなど、試合の主導権を握った。対して福井県もネット際の攻防を制して着実にブレイクを重ね、10対10と追いついた。その後も青森県11番太田がスパイクを決めれば、福井県16番木原も鋭いスパイクを決めるなど一進一退のラリーが続く熱戦となった。しかし、終盤は青森県のベンチワークが冴え、途中交代で入った選手が躍動し、このセットも取り切ってストレートで勝利を取めた。